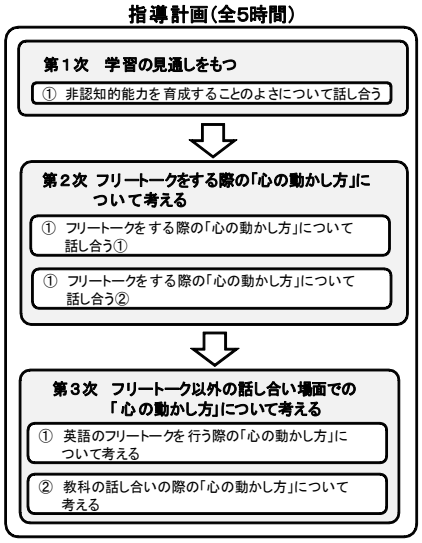
「心の動かし方」を探ろう　（第６学年）

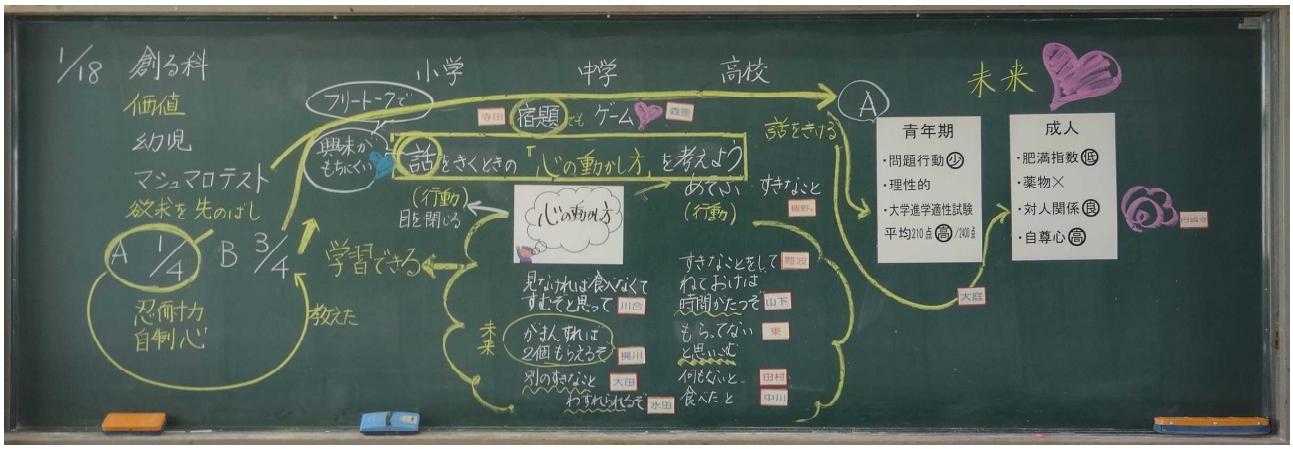
１　子どもの学びの実際

本単元は、フリートークを行う際の「心の動かし方」の価値を見出し、その「心の動かし方」が活用可能な場面を考えていく学習である。「心の動かし方」の価値についての考えを深めていった第１次から第３次第１時までの学びを中心に記す。



①　「心の動かし方」を考えるとよりよい未来につながりそうだぞ［第１次の学び］

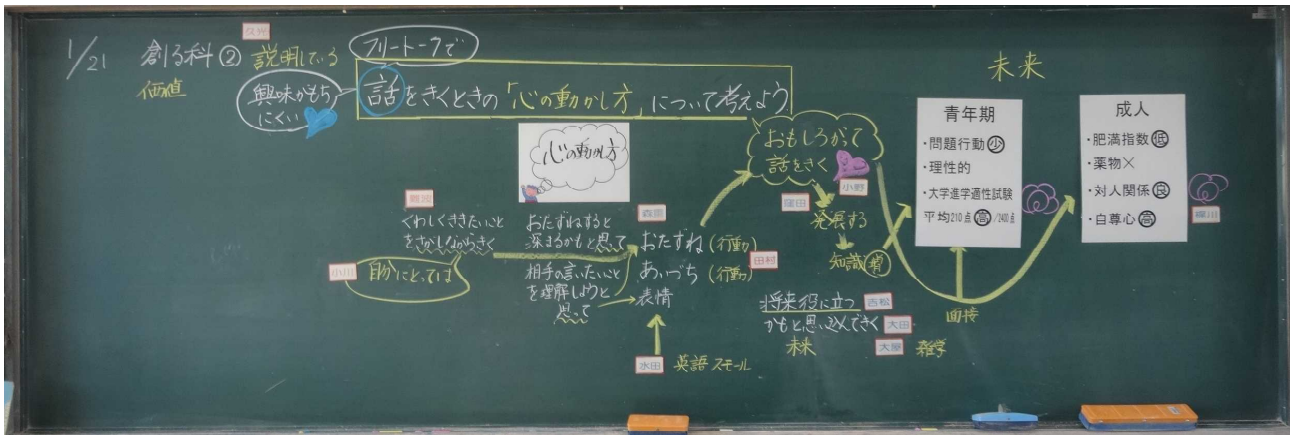
単元のはじめに、「創る科」は、未来につながる価値を創り出す学習であること、本時はマシュマロテストを手がかりに「心の動かし方」について考えていくことを伝えた。マシュマロテストの話をする中で、欲求を先延ばしにする「心の動かし方」を幼児がしていること、その「心の動かし方」は学習可能であること、「心の動かし方」を身に付けることでその後の行動を変え、未来を変えていく可能性があることなどをことを確認し、板書上に位置づけていった。その際、自分だったらどのように心を動かし、欲求を先延ばしにするかを考え、交流する時間を仕組んだ。子どもは自分なりの「心の動かし方」を考え、自分の考えを発言した。その発言に対して「その心の動かしすると方をするとどんな未来につながりそう」と問い返した。すると、「宿題をしなくてはいけないけど、ゲームをしたいときに、自分をコントロールできる」「そうするとテストの点数がよくなる」などと、具体的な「心の動かし方」と未来とを結び付けて考えていた。このようなやりとりを通して、子どもは学習のめあてと見通しをもち、「心の動かし方」についての学習に取り組む意欲を高めていくことができたのである。



②　フリートークをする際の心の動かし方を考えよう［第２次第１時の学び］

この時間は「フリートークで興味がもちにくい話をきくときの『心の動かし方』を考えよう」をめあてに学習をしていくことを伝えた。その際、「話す、きく、書く、読む」の中で一番「きく」時間が多いことを伝え、このめあてで学習するとどんなよいことがありそうか考える時間を設けた。子どもは「興味をもちにくい話もおもしろがってきくことができるよ

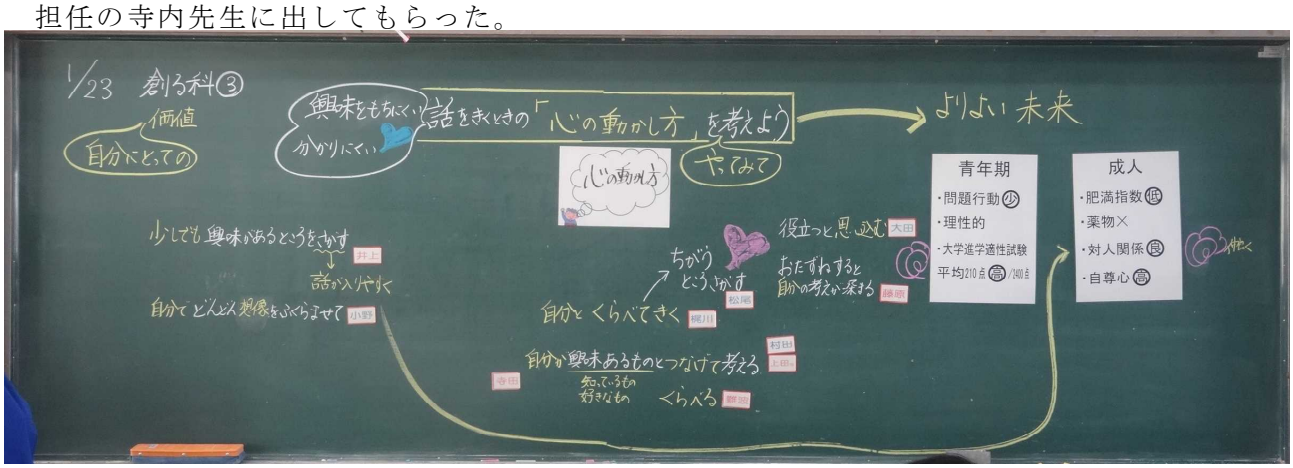
うになると、将来の人とうまくやっていくことができそう」と話していた。子どもが自分なりに学習することの価値につながる見通しをもてたところで、「心の動かし方」を考え、交流する時間を設定した。子どもは「相手の言いたいことを理解しようと思ってきく」「将来の役に立つかもと思い込んできく」などと自分の考えを発表した。いくつか考えが出たところで、どの「心の動かし方」を自分だったら実行してみたいかを問うた。O児は「くわしく聞きたいことを探しながらきく」を挙げ、「自分だったら、おたずねをする」と自分なりにアレンジして心を動かそうとする発言をした。そこで、「おたずねをするとどんな未来につ



ながりそうか」と全体に問い返した。すると、S児は「おたずねをして答えてもらうと、『そうなんだ』とおもしろがってきける」K児は「おもしろがってきくだけではなく、『だったら、こう考えられるな』と考えが発展する」などと発言する姿が見られた。このようにして、仲間の「心の動かし方」の価値を受容・評価していくことができたのである。

③　考えた「心の動かし方」が本当にできるかやってみよう［第２次第２時の学び］

「話をきくときの『心の動かし方』をやってみて考えよう」というめあてを示し、このめあてで学習することの価値を考える時間を設けた。子どもは「実際にやってみることで、前の時間に考えた『心の動かし方』が使えるかどうか分かる」と発言した。そこで、前時に考えた「心の動かし方」を参考にやってみようと思うものを選ばせた。フリートークのお題は、担任の寺内先生に出してもらった。



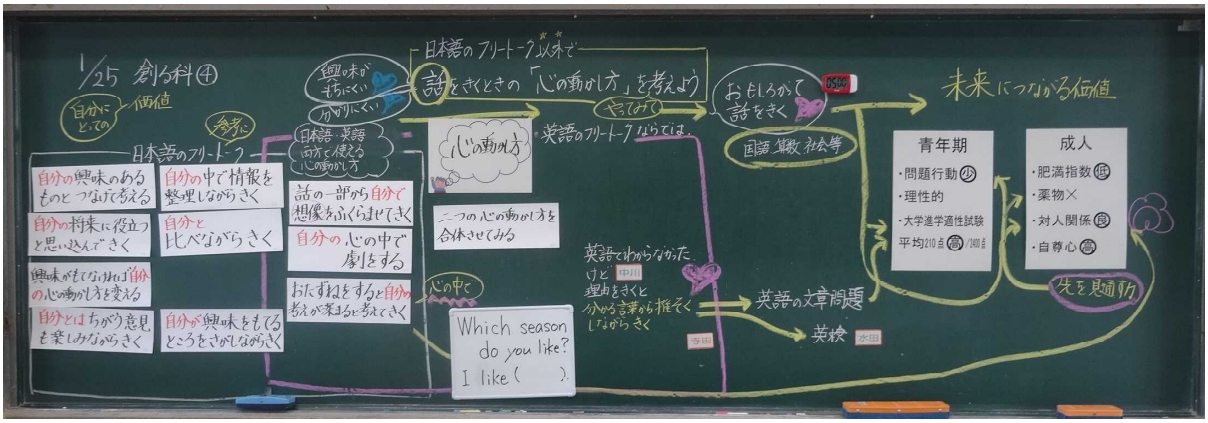
フリートーク終了後、「心の動かし方」を試してみてどうだったか振り返りを書く時間を確保した後、全体で交流を行った。子どもは「少しでも興味があるところを探したら、話が入りやすくなった」と、実際に試すことによって「心の動かし方」の有効性を感じている様

子であった。多くの子どもが有効性を感じたという発言をする中、K児は「自分も興味があるところを探したが、どの話も興味がもてたので、上手く心を動かせなかった」と語った。この発言から、K児は意識していないが心を動かしていると感じたので、「K君は、無意識のうちに自分と比べてきくという「心の動かし方」をしているのではないか」と全体に問い返した。すると、そのやりとりを聞いていたM児が「たしかに、比べて同じところを探している。違うところも探すと、もっとおもしろがって話をきくことができそうだ」と発言した。F児はM児の発言に対して「おたずねをすると、考えが深まりそう」と発言した。このようにして、子どもは、心を動かすことの楽しさや「心の動かし方」を考えるよさを感じていったのである。

④　英語のフリートークでも「心の動かし方」は使えるのだね［第３次第１時の学び］

この時間のはじめに「日本語のフリートーク以外で話をきくときの「心の動かし方」をやってみて考えよう」というめあてを提示し、「心の動かし方」について次のように整理した。「日本語のフリートーク」、「英語のフリートークならでは」「日本語・英語両方で使える心の動かし方」「国語、算数、社会等で使える心の動かし方」に分けて板書上に枠を書いた。さらに、「日本語のフリートーク」の枠に、これまで子どもが見出した「心の動かし方」のカードを貼り、このめあてで学習することの価値を考える時間を設けた。子どもは「フリートーク以外でもおもしろがって話を聞くことができると対人関係がよくなりそう」「日本語ならでは、英語ならでは、両方使えるものに整理できそう」などと見通しをもつことができた様子であった。

子どもは、これらのカードを参考に英語のフリートークの際にしてみたい「心の動かし方」を決め、英語のフリートークに臨んだ。英語のフリートークは英語担当の寺内先生に行ってもらった。



英語のフリートーク終了後、「心の動かし方」を試してみてどうだったか振り返りを書く時間、書き終わった子ども同士で交流する時間を設けた。N児は「英語で分からないところがあったけど、理由を聞いたら少し分かって楽しめたのでよかった」と書いていた。この振り返りは英語ならではの「心の動かし方」につながる振り返りであったため、意図的に指名し次のように価値付けた。「英語は日本語よりもたくさん分からない言葉があるから、この『心の動かし方』いいなと思って。」さらに、「みんなはNくんの『心の動かし方』どう思う」と全体に問いかけた。この問いかけに対して、T児は「分かる言葉から推測しながらきくというのがよいと思う」と話した。このT児の発言に対し、M児は「そうすると将来の英

語の文章問題もできると思う」「先を見通す力になると思うから、対人関係もよくなると思う」などと語り、「心の動かし方」についての考えを深める姿が見られた。

子どもは、振り返りに「英語のフリートークでも心の動かし方が使えることが分かった」「国語や社会の時間にも『心の動かし方』ができるか考えたい」などと書いていた。このような学びをとおして、子どもは自分の「心の動かし方」の汎用性に気付き、「心の動かし方」の活用場面を考えていったのである。

２　実践を振り返って

子どもは、これまでの生活・学習経験を手がかりに「心の動かし方」を考え、回数を重ねるごとに「心の動かし方」を考えることのよさや楽しさを感じることができた。その際、「未来とつなぐこと」「自分とつなぐこと」「仲間とつなぐこと」を意識して、問い返したり板書したりすることが有効であった。そうすることで、仲間の「心の動かし方」の価値を受容・評価し、「心の動かし方」についての考えを深めていくことができたのである。